

PRAEVIDENTIA DAILY (12月19日)

昨日までの世界：原油・株価の悪循環が途切れる

昨日は、追加材料が少ない中で、原油価格が再び下落したにも拘らず、前日のFOMCを受けた米株高と米中長期債利回り上昇が継続したことから、ドル/円相場が続伸し、一時119.30円へ上昇した。ユーロ/ドル相場も一時1.2264ドルへ続落し、12月8日の年初来安値である1.2245ドルに迫る水準となった。但し米中長期債利回りの上昇幅からするとドル高は限定的で、ドルは対円、対ユーロ以外の他通貨ではむしろ下落している。

スイスでは、臨時理事会が開催され、フラン高阻止のため、ECBやスウェーデンと同様に、(一定以上の預金に対する)中銀預金金利へのマイナス金利適用(-0.25%)を発表した。これに伴い、3か月物フランLIBOR誘導目標も従来の0.00~+0.25%から、-0.75~+0.25%へ拡大された。ユーロ/フランの下限設定は1.20フランで維持された。12月11日開催の四半期定例理事会では政策変更は行われなかったことから、タイミング的にはサブプライズとなり、フランは対ユーロ、対ドルで大きく下落し、ユーロ/フラン相場は1.20フラン前半から一時1.2095フランへ、対ドルでは0.97フラン半ばから一時0.9847フランへ上昇し年初来高値を更新した(フラン安)。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.03	+0.02	-0.01	+0.06	+0.06	-0.01	+2.4	+2.3	-2.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.4	-0.04	-0.02	+0.02	-0.03	+0.02	+0.06	+3.1	+2.4	-0.05
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	+0.6	+0.01	+0.03	+0.02	+0.04	+0.10	+0.06	+2.0	+2.4	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.6	+0.02	+0.04	+0.02	+0.01	+0.07	+0.06	+2.4	-0.1	-0.8
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.8	-0.02	+0.00	+0.02	-0.03	+0.02	+0.06	+2.4	-0.1	-0.8
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.4	+0.00	+0.02	+0.02	+0.00	+0.06	+0.05	+2.4	-4.0	-0.8

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：日銀の円安黙認姿勢を確認へ

きょうの注目通貨：USD/JPY↑、CAD↑

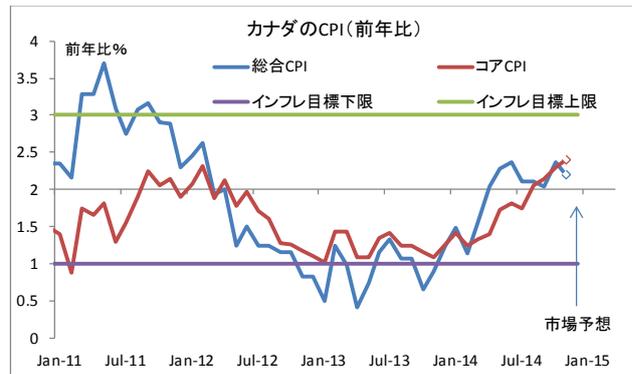
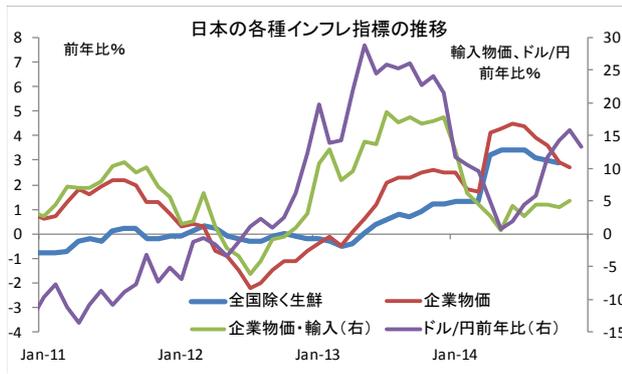
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
日銀決定会合	未定			
黒田総裁定例記者会見	15:30			
カナダ11月総合CPI前年比	22:30	+2.4%	+2.2%	インフレ目標は1-3%
同・コア		+2.3%	+2.4%	
カナダ10月小売売上高・前月比	22:30	+0.8%	-0.2%	
同除く自動車		0.0%	+0.2%	
Evans シカゴ連銀総裁発言	19:00			ハト派、来年は投票権あり
Lacker リッチモンド連銀総裁発言	2:30			タカ派、来年は投票権あり

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は、日銀決定会合と黒田総裁記者会見で特段円安への懸念が示されないことが確認されれば、米中長期債利回りと米株価の反発基調を背景に、ドル/円相場はじり高基調が続き、再び119円乗せを試す展開となりそうだ。追加緩和政策の明白な帰結が円安であるため、円安懸念は自身の緩和策へのコミットメントの揺るぎを示

しかねたため、日銀から円安懸念が発せられることは、現時点ではまずないとみていだろう。現実問題として、2%インフレ目標達成には円安が必要だ。インフレ率の反落基調が続く中で追加緩和期待は熾っているものの、追加緩和のタイミングとしては、10月末にサプライズ緩和を実施して間もない中で、次回1月会合でインフレ見通しが下方修正された後、来年4月以降との見方が多いようだ。

その他、カナダ CPI が注目される。産油国通貨であるカナダドルは原油安の悪影響を受けて下落しており、多少の CPI 上昇でも来年 10-12 月期がコンセンサスとなっているカナダ中銀の利上げ開始時期が早まるとは考えにくい。足許上昇してきている CPI が更に上昇を示すようだと一時的なカナダドル上昇に繋がるリスクはある。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者 (投資助言・代理業) 関東財務局長 (金商) 第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641